教職実践演習資料　「教員の研修」

ストップモーション方式による授業検討

１　方法

ビデオを活用した授業研究の方法。授業を撮ったビデオ視聴し、検討すべき場面でビデオを一時停止させ、参加者からの意見を求め、議論しあう集団的研究法である。

２　特徴・意味[実証性・生産性・平等性・民主性]

1. 一般的な授業研究は、授業を参観した後で協議する場合が多い。この場合、記憶と印象による検討となってしまい、実証性、具体性に乏しい。授業のビデオを見ることで、事実に即して研究協議ができる。また、指導の方法や技術が他の授業に生かしやすい。
2. 学校現場でおこなわれる授業の研究協議は、〈授業者の反省⇒質疑・応答⇒参加者の意見⇒指導者による指導〉というプログラムで進行することが一般的である。この場合、最終的には指導者の見解・評価が絶対的価値となりやすく、研究性が乏しくなる場合が多い。ストップモーション方式は、原則として権威的な指導者を置かない全員参加、参加者主体の研究協議なので、開放的、民主的であり研究の自主性を保てる。

３　ストップの主な切り口（評価的に、批判的に）

○主として指導方法・技術に関すること

・教師の発問や指示、評価の仕方について　　・教師の声、視線、表情、位置、構えについて

・板書の文字、教材・教具の使い方や効果について・子どもの発言や行動について

・子どもの学び方について　　・学習集団の指導、在り方について

・その他、見ていて気になったことや疑問

○主として学習内容（教科内容）に関すること

・教材選択について

・指導目標について

・指導構想について

４　基本的な流れ（固定したものではない。参加者によって、必要に応じて決める）

|  |
| --- |
| 1. ビデオの視聴   ・視聴に先だって、教材、学年、子どもの実際、授業者などの情報を報告すると協議がスムーズにすすむ）   1. 参加者の挙手でビデオを止め、必要に応じ協議する。   ・参加者の求めと必要性に応じ、これを繰り返す。   1. 明らかになった課題をまとめる。 |